力をさゝげつゝある。しかしながら日本大衆党の醜聞問題以来気持の上から日本大衆党をはなれ、「左翼政党」の名と気持すとに眩惑され、稍々もすれば新労農党に合流せんとする要素さへがある。それ故にこの地方政党協議会の戦線統一への努力を「大衆的全無産政党の即時無条件合同」への方向に向けしむるためには、協議会に対するわが「分反」の働きかけが一層重要である。

即ち、地方諸政党は、日本大衆党をして当初よりの使命たる単一無産政党樹立の任務を遂行せしむべき推進力として将又党の階級性を擁護しその清算を保持する力として「分反」大衆が完全にその組織内に止るにあらずんば安じて全合同への具体的一歩としての日本大衆党との合同へ進出することを得ない情勢にある。

(ハ) 新労農党の出現

「分反」が巧妙執拗なる喰下り戦術によって日本大衆党の階級性防衛に努力しつゝある間に、大山、河上、細迫、或は従断左翼主義の下に新に左翼政党を結成せんとする八月提案書を発表し、着々と結党計画をすゝめ十一月一、二日を以って結党式を挙げるまでに至った。

「分反」はこの提案書が発表さるゝや直ちにその従断左翼主義、戦斗的統一論者々の誤謬を指摘してこれが徹底的批判をなした。

「（連示）第四号及び声明書」それが大衆に、この書をしきりに「左翼政党」の旗声に呼応し隔しを立たんとした大衆もこの「分反」の徹底的批判にあつて始めて新党の分裂主義を看破し得て、これに批判的態度を示すものが多くなった。その中心的支持勢力たる全農新潟県聯合會の如きは、嵐南、嵐北の地区委員會の名に於て「無批判にその提案に賛成するものでない」、ことを声明してゐる。たがそれにも拘らず大体に於て提案書のかの誤謬に満ち充てる方針の下に「新労農党」は十一月一、二日に結成される情勢にある。

この誤れる方針を理論的、實践的に克服せねば我が國に於ける単一無産政党樹立は不可能である。しからばいかにしてこれが克服は可能であるか。それは「分反」が完全に日本大衆党内にとゞまって党内に於て統一運動の推進力となり日本大衆党をして、労農大衆に公約せる全合同による統一を遂行せしむる道以外にはない。かくてこそ始めて新労農党内にすでに起りつゝある分裂主義的傾向の清算戦線統一への要望を更に促進し、之と相呼應して単一無産政党樹立への道を闊歩し得るのだ。

(ニ) 日本大衆党の現状

「分反」四ヶ月の運動は日本大衆党内に異常のセンセーションを起こし、前述の如く醜行幹部より大衆は離反し、左翼幹部への大衆の信頼はいやが上にも高まった。本部幹部の「分反」孤立化政策の故に、直接「分反」と行動を共にすることを得ざりし各支部よりも今や続々として除名取消の声が上ってゐる。九月八日の福岡県支